



第32回定時株主総会

そーせいグループ株式会社

Agenda

1

開会宣言

2

議決権個数のご報告

3

監査委員会の監査報告

4

2021年12月期の連結業績・事業報告

5

連結計算書類の監査結果報告

6

決議事項

7

質疑応答

8

採決

9

閉会宣言



1

開会宣言
Opening Declaration



2

議決権個数のご報告
Report on the number of
voting rights



3

監査委員会の監査報告
Audit Committee Audit Report



4

2021年12月期の事業報告
連結業績

FY2021 Consolidated Results
Business Report

2021年も事業は順調に進展

2021年12月期(1-12月)業績ハイライト

1

ニューロクライン社との提携契約締結により、売上収益は17,712百万円(前期は8,842百万円)と大幅増

2

ニューロクライン社との提携契約締結により、コア営業利益は8,904百万円(前期は2,904百万円)、営業利益は3,775百万円(前期は928百万円)と大幅増

3

大幅な減損損失、条件付対価評価損があったものの、当期利益は1,017百万円と持続的な通期黒字目標を達成

4

約100億円を新規成長投資を目的に調達。戦略的成長と投資加速に向けて既存の資金に上乗せ

5

現金および現金同等物は前期末比201億円増の601億円と強固な水準を維持

バランスが取れた独自のビジネスモデルにより、引き続き持続可能な財務状態を維持

注: 為替レート: 1ドル=110.16(2021年度)、106.77(2020年度)

2022年12月期の費用見込み

従来の現金費用ベースからIFRSベースでの開示に変更

費用見込み
(2022年12月期)

研究開発費(IFRSベース)

5,750百万円～6,750百万円
(2021年実績:5,931百万円)

- ✓ プラットフォームを拡充し、探索能力の向上を図る
- ✓ プログラムの臨床開発に注力し、トランスレーショナル・メディシンの能力向上に投資
- ✓ より価値の高い提携に向け、優先プログラムをフェーズ1b臨床試験に進める

一般管理費(IFRSベース)

3,750百万円～4,250百万円
(2021年実績:3,940百万円)

- ✓ 優れたサイエンスを支えるため、管理部門へ投資
- ✓ コーポレート・ガバナンスの強化
- ✓ 東証PRIME上場に向けた取り組み

中長期的に大きなリターンを得るための緩やかな追加投資

2021年の振り返り

内部成長と戦略的成長の両輪で、今後の成長を推進

2021年期初目標

結果



内部成長

- 1 平均年2~3件の価値の高い提携/共同投資の実行
- 2 GPCRの専門性を強化
- 3 平均年2つの新規前臨床候補品を創出
- 4 パイプラインの進展を実現

- ✓ 1件達成 
- ✓ 達成: 創薬プラットフォームを継続的にアップデート
- ✓ 達成: M1作動薬バックアップ、M1/M4作動薬等
- ✓ 達成: MC4拮抗薬、CGRP拮抗薬等がPhase1試験段階に進捗



戦略的成長

- 1 企業買収など収益創出につながるチャンスを模索
- 2 新規テクノロジーへの投資と技術提携
- 3 GPCR以外への創薬ターゲット拡大
- 4 後期臨床開発段階のアセットを日本市場向けに導入

- ✓ 追加資金調達を7月に完了。適切な買収先検討を継続
- ✓ 達成 
- ✓ 達成 
- ✗ 未達成: 実現に向け稼働中

主要な提携契約

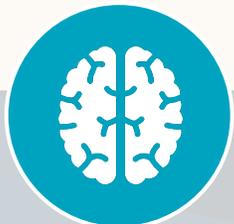
2021年にはニューロクラインとの大型提携を実現

提携先	提携時期	プログラム	疾患領域	契約一時金 初期マイルストーン	マイルストーン総額 (最大) ¹
	2021年11月	M4、M1、M1/M4作動薬の ライセンス契約と研究開発提携	神経疾患	100百万ドル	26億ドル
	2020年12月	GPR35作動薬のライセンス契約 と研究開発提携	消化器疾患/免疫疾患	44百万ドル	4.8億ドル
	2020年12月	CGRP拮抗薬のライセンス契約 と研究開発提携	神経疾患	10百万ドル	3.8億ドル
	2020年6月	ライセンスオプションを 含む創薬提携 ²	炎症性疾患/自己免疫	32百万ドル	4億ドル
	2019年8月	複数のターゲットを 対象とした創薬提携	複数 当面は消化器疾患に注力	26百万ドル	12億ドル
	2019年7月	複数のターゲットを 対象とした創薬提携	複数	26百万ドル	10億ドル
	2015年11月	複数のターゲットを 対象とした創薬提携	複数	--	18億ドル
	2015年8月	A _{2a} 拮抗薬のライセンス契約 と研究開発提携 ³	がん免疫	10百万ドル	5億ドル

¹ 将来受け取る権利を有するオプション行使料、開発/承認/商業化マイルストンの総額。これとは別に製品が販売された場合には、ロイヤリティとして売上高の一定割合(通常1桁中盤~2桁の段階的ロイヤリティ)を受領する権利を有する。² アッヴィは最大3つのターゲットを追加的に選定できるオプションを有する。³ アストラゼネカ社は、2021年第3四半期に、A_{2a}プログラムを臨床パイプラインから削除しています。

迅速かつ効率的な臨床開発

今後2年間に優先的に開発を行う自社開発プログラム4品目



統合失調症
および精神疾患

GPR52 作動薬



アトピー性皮膚炎

H4 拮抗薬



固形がんにおける
がん免疫療法

EP4 拮抗薬



炎症性腸疾患

EP4 作動薬

製品の特長

- 1日1回経口投与の低分子
- 24時間標的に作用

- 1日1回経口投与の低分子
- 単剤もしくは併用にて投与

- 1日1回経口投与の低分子
- チェックポイント阻害剤と併用で投与

- 経口投与、消化管に限定的に作用
- 良好な有効性/選択性
- 消化管全体への影響は最小限

中長期的により大きな価値創出のため、今後2年間で優先プログラムを早期臨床試験(フェーズ1b)に進める

M4 作動薬の競合環境

ムスカリンM4受容体は、様々なタイプの統合失調症で有効性が証明されつつあるターゲット

	 KARUNA THERAPEUTICS	 cerevel	 sosei HEPTARES
リードプログラム	KarXT	CVL-231 (Emraclidine)	HTL16878
作用機序	M ₁ /M ₄ 作動薬 M ₂ /M ₃ 拮抗薬	M ₄ PAM ²	M ₄ 作動薬
現在のフェーズ (最も進んでいる)	第III相	第Ib相	2022年に第II相開始予定
ターゲット	統合失調症 認知症の精神症状	統合失調症	統合失調症
臨床データの 株価への影響 ¹	第II相臨床試験で主要評価項目 を達成 (2019年11月18日) 株価\$17.68 → \$85.10 (17億ドル超の時価総額増)	第I相臨床試験の良好な結果 (2021年6月29日) 株価\$12.57 → \$23.20 (16億ドル超の時価総額増)	-

当社の治療薬候補は
ベスト・イン・クラスに
なる可能性がある

- 非M4ムスカリン系副作用の回避
- 末梢性M4の心血管系への影響を緩和する
- PAMとは異なるプロファイルで、M4作動薬は、コリン作動性緊張を欠く患者により効果的である可能性が高い。

¹発表日5日後の株価の変化 ²PAM = Positive Allosteric Modulator (ポジティブ・アロステリック・モジュレーター)
出典: 当社開示資料, FactSet



Neurocrine
BIOSCIENCES



創薬プラットフォームの強化

世界をリードするGPCR創薬プラットフォームに新技術導入でさらに強化



基盤技術

StaR®
(受容体の安定化)

SBDD
(構造ベース創薬)

+

+

新技術で増強

クライオ電子顕微鏡

DELスクリーニング
(DNAエンコードライブラリ)

プロテインバインダー
ツールキット

世界をリードする
ITを活用した
GPCR創薬
プラットフォーム

“難しいターゲットをより早く”

“より良い化合物をより早く”

戦略的提携の位置づけ

新しい創薬手法を牽引する業界内のコラボレーション



標的GPCRの発掘

verily

Inveni AI
Innovate with Intelligence

当社の基盤技術

StaR®	SBDD
CryoEM	DEL Screening
Protein Binder Toolkit	

治療薬候補の創出

PHARMENABLE metrion biosciences
TWIST BIOSCIENCE Captor Therapeutics® PeptiDream kymab

GPCR以外にも
活用可能な
ITを活用した世界屈指の
創薬プラットフォーム

成長戦略概要

成長を加速させるための中長期的な方向性

ITを活用した創薬プラットフォーム (StaR®/SBDD)

将来の戦略的成長のために



内部成長

- 前臨床段階ではなく、臨床試験でPOCを取得してから導出することで提携の価値を高める
- ITを活用した創薬の世界的リーディングカンパニーとしての地位を堅持

- プログラムの開発に注力。トランスレーショナル・メディシン能力の強化と定着化
- 優先順位の高いプログラムを臨床に進め、GO/NOの判断を迅速に行う



戦略的成長

- 新たな戦略的技術提携により当社のプラットフォームの可能性を拡大
- 買収、提携を通して既存プラットフォームや買収先とのシナジーを最大化

- 相互に補完し、相乗効果を発揮できる買収を模索中
- 日本市場向け後期臨床開発品の導入

2022年度に優先する目標①

引き続き内部成長と戦略的成長の両輪で今後の成長を推進

2022年期初目標



内部成長

1 1つ以上の価値の高い提携/共同投資の実行

2 1つ以上の前臨床候補品の創出

3 プラットフォームの生産性をより強化



戦略的成長

1 新たな収益源となる企業買収機会の継続的な探索

2 シナジーのある新規テクノロジーとの協業や投資

3 後期臨床開発品の日本市場への導入

2022年度に優先する目標②

グローバルビジネスにおける持続可能なESG活動の実践

2015年9月に国連で採択されたSDGsの17項目



当社のSDGs注力10項目とESGとの対応



- E**
- サステナビリティ委員会において、エネルギーの有効活用・再生可能エネルギーの推進、および廃棄物の削減・水資源の有効活用を推進
 - 創薬産業の効率化

- S**
- 関美和氏を社外取締役候補に選任
 - SARS-CoV-2 Mpro阻害剤プログラムを推進し、提携の可能性を追求するため、ウェルカム財団から助成金を受領

- G**
- 提案予定の新たな取締役会 – 8名中6名が独立社外取締役で構成
 - 投資委員会および科学諮問委員会が取締役会に対して勧告



5

連結計算書類の監査結果報告
Report on Audit Results on the
Consolidated Financial Statement



6

決議事項

Matters to be Resolved

定款一部変更の件

(招集ご通知 6頁－7頁)

第2号議案

取締役8名選任の件（招集ご通知 8頁-18頁）

1	田村 真一	取締役会会長 代表執行役社長CEO、指名委員長、報酬委員	再任		
2	クリストファー・カーギル	執行役CFO	新任		
3	遠山 友寛	社外取締役 監査委員長、報酬委員	再任	社外	独立
4	加賀 邦明	社外取締役 指名委員、監査委員	再任	社外	独立
5	デビッド・ロブリン	社外取締役 報酬委員長、指名委員	再任	社外	独立
6	永井 智亮	社外取締役 監査委員	再任	社外	独立
7	ロルフ・ソダストロム	社外取締役 監査委員、報酬委員	再任	社外	独立
8	関 美和	—	新任	社外	独立

注：現在の当社における地位および担当を記載



7

質疑応答
Q&A



8

採決
Vote



9

閉会宣言
Closing Declaration